

学会報告 ISSOL'05 に参加して

物質・材料研究機構 橋爪秀夫

HASHIZUME.Hideo@nims.go.jp

中国、北京の清華大学で開かれた ISSOL'05 に参加しましたので、簡単に御報告致します。

ISSOL'05 は6月19日から24日まで行われました。成田—北京は約4時間のフライトなので、午前中の便に乗ると午後には北京国際空港に着いてしまいます。日本と北京の時差は1時間ですので、時差ボケも殆ど感じません。19日に午前中の便に乗って十分に会場で registration を済ませてしまったので、近い国という感じがしました。その頃の日本は梅雨寒で、気温も平年より下回っていたのですが、北京は連日30数度の猛暑でした。北京は海から遠く盆地のような気候のため、夏は暑いのだそうです。空港から会場の精華大学までタクシーで行きましたが、あちこちで高層ビルなどの建設を行っていて、2008年のオリンピックの準備なのかしらと思いながら風景を見ていました。またタクシーから見る木々はなんとなく北海道のような感じでした。北京の印象としては車や自転車が凄く多くて道から溢れるように感じました。凄く混雑しているのによく事故を起さないものだと感心しました。また綺麗な外車もたくさん走っていて、中国の経済成長ぶりを感しました。会場の精華大学は北京の北の方にあり、市の中心部から離れた所にありました。大学の敷地は日本の大学の大きさからは想像ができないほど大きくて、大陸的な感じがしました。

私は ISSOL の会議に今まで出席したことがなかったので、どのような会議なのかと少しわくわくしていました。ISSOL'05 Beijing のホームページでプログラムを見て、特別講演と各セッションで招待講演と1つ一般の口頭発表があるかないかで、それ以外はポスター発表でした。もう少し一般の口頭発表があっても良いと思いました。20日の朝から、オープニングセレモニーの後、集合写真を取りました(写真1)。写真が小さくて顔が分からないかもしれませんが、下段の中央右に Eigen 教授、Eigen 教授の右側ひとり飛ばして Miller 教授がいらっしゃいます。講演会は Joyce 教授の RNA world に関する特別講演で始まりました。セッションは全部で11あり、原始地球の環境や無生物的有機物合成、不斉、RNA ワールド、Cell に関して、初期の生命体に関して、生命体の探索等々ありました。登壇者はそれぞれのセッションで4から7名でした。私の印象としましては、生命の起原および進化学会の年会で行なわれるセッションとほぼ同じで、内容も飛び抜けて奇抜なものはあまり無かったように思いました。(自分の英語力などのため、新しい奇抜な発想の講演があっても聞き逃してしまったのかもしれませんが。)また公開講演が4つ企画されていて、S. Miller や M. Eigen、J. Chen、G. Wang が講演しました。Miller 教授を見ることができたことは良かったと思っています。教授は車椅子を使われていて、お身体が弱られているのかしらと思いましたが、連日の猛暑にもかかわらず、毎日講演会に顔を出されていました。ポスターセッションでは無生物合成に関するものが非常に多く、RNA ワールド関連のポスターがその次に多くなっていました。その他の分野においては、微化石や Cell 関係のポスターも多くありました。その他気付いた点としましては、ポスター発表の数などからも atstobiology というのが生命の起原研究の中で大きな位置を占めていくのだろうという印象がありました。

ISSOL'05 の参加者は300人を越えた位のようにでした。参加した方々は国別に多い順にアメリカから100名強、中国から100名前後が飛び抜けて多く、その他ヨーロッパや中南米でした。日本人は19名と言われていました。私はもっとたくさんの日本人が参加するのではと思っていたのですが、反日デモなどがあったためか、意外に少なかったと思いました。

最後に、雑誌などの記事からこれから生命の起原研究でどのような分野が盛んになるのか予想はできませんが、実際に ISSOL '05 に参加して生命の起原研究の興味の対象がどういう分野に移っていかしているのかというのが良く分ったことと、自分の研究等がどのような場所にいるのかが分ったことが良かったと思っています。

次回は2008年にイタリアのフィレンツェで開催するそうです。また、チャンスがあれば、参加したいと思いました。



写真1 ISSOL'05 参加者の集合写真。真後ろに写っている建物が会場。